

IPO銘柄 ポエック (9264・JASDAQ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
9264	100株	公募: 32.00万株 売出: 14.20万株 (OA6.93万株)	670円~750円 (11.1倍)	野村証券



水処理機器やオゾンガス発生装置、船舶用機器などを手掛ける

■ 事業内容

ポンプなどの水処理機器やオゾンガス発生装置などの環境・エネルギー事業と、船舶用機器やプラント関連機器の動力・重機等事業が主力。防災・安全事業としてスプリンクラー消火設備用加圧水装置なども手掛ける。環境・エネルギー事業で取り扱うポンプ類は国内メーカーからの代理店契約に基づいて仕入れ販売しており、他社納入品も含めた修理、メンテナンスを行っている。動力・重機等事業では大型機械として船舶用エンジン台板、小型精密部品として燃料噴射弁部品がある。防災・安全事業では屋内・屋外消火栓やスプリンクラー消火設備用加圧送水装置が主力で、製造は子会社の三和テスコが手掛けている。17年8月期3Q実績の売上高構成比は環境・エネルギー事業が52.0%、動力・重機等事業が33.1%、防災・安全事業が14.9%。

■ 特徴

仕入れ販売のポンプ類は工場や建物に使用される水の供給システム、加熱・冷却などの熱媒などに使用されるものが中心で、水処理機器で手掛ける食品、化学メーカー向けかくはん機は自社製造している。環境改善機器ではオゾンガス発生装置を国内メーカーからOEM（相手先ブランドによる生産）品として供給を受けて販売するほか、オゾン脱臭装置の仕入れ販売を行うなど、仕入れ販売、子会社を通じた自社生産、OEMと各分野に合わせて様々な対応を行っている。

アナリストコメント

■ 定量分析

18年8月期の連結営業利益は前期比5.9%減の1億7,200万円を計画する。北海道地区への進出などの効果で営業利益ベースでは大幅増益を見込んでいるものの、保険解約返戻金や投資有価証券売却益計上の反動から経常利益以下は減益となる見込みにある。

■ 定性分析

地方に本社を置く企業で、ネット系企業などに比べると地味なビジネスモデルで成長イメージを描きづらい。成長性などを評価して参戦するタイプの案件ではないが、野村証券が主幹事を務める超軽量級案件として人気は高まりそうだ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約4億円。超軽量級案件で、上場初日は業態や成長性などへの評価を無視した、需給主導の初値形成になることが読まれる。ベンチャーキャピタル保有株はあるが規模が少なく、初値形成に大きな影響を与えることはなさそうだ。

(小泉健太)

■ 類似企業

ポエック(9264・JASDAQ)	予想PER11.1倍 (仮条件上限)
帝国電機製作所(6333・東証1部)	予想PER19.4倍
イワキポンプ(6237・東証2部)	予想PER15.1倍

■ 引受証券

野村証券、みずほ証券、SMBC日興証券、SBI証券、SMBCフレンド証券、岩井コスモ証券、香川証券、ひろぎん証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
16年8月期(実績)	5,407	9.0	184	▲8.2	106	▲6.3	78.0	37.50
17年8月期(実績)	4,942	▲8.6	183	▲0.8	143	34.1	105.2	50.00
18年8月期(会社予想)	5,399	9.3	172	▲5.9	108	▲24.4	67.5	32.21

※ 17年9月に株式分割(1株→400株)を実施。16年8月期および17年8月期のEPSと配当は遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年8月期	3,419	6,068	715	294	523.3	11.8	16.2
16年8月期	3,419	7,178	729	294	533.6	10.2	14.8

※ 15年8月期および16年8月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1 来山 哲二	454,000	28.68
2 采女 信二郎	282,000	17.81
3 ポエック従業員持株会	119,200	7.53
4 東洋額装	80,000	5.05
5 来山 美佐子	62,000	3.92
6 下田 武久	40,000	2.53
7 ごうぎんキャピタル	30,000	1.89
8 藤田 砂智	22,400	1.41
9 定藤 洋子	20,000	1.26
9 HC6号投資事業有限責任組合	20,000	1.26
9 三菱UFJキャピタル3号投資事業有限責任組合	20,000	1.26
9 東洋高圧	20,000	1.26
9 りそなキャピタル	20,000	1.26

経営陣

役職	氏名
取締役社長(代表取締役)	来山 哲二
取締役副社長(代表取締役)	采女 信二郎
専務取締役	寒川 貴宣
常務取締役(営業部長)	松村 俊宏
常務取締役(業務部長)	三谷 俊二
取締役(管理部長)	吉本 貞幸
取締役	森本 敏昭
取締役	森 紀男
取締役	高坂 敬三
取締役	村本 修
常勤監査役	上村 一武
監査役	小林 景
監査役	池田 和三

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。